

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

常金中学校区	校番 66	福山市立 常金丸小学校
最終更新日		2021年(令和3年)4月7日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力
○成果が表れている。重点を絞って取り組みを行ってもよい。 ○子どもに寄り添い、地域に目を向けた取り組みが行われている。 ○児童生徒のより良い育成・成長に取り組んでもらいたい。	○安定した地域環境や家庭基盤から、児童生徒は純朴で基本的な生活習慣が身に付いている。 ○学校と地域が相互に協力して子どもを育てており、子どもは地域行事等へ積極的に参加する。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	郷土愛と志を持ち、深く考え、仲間とともにやりぬく子ども			
		中学校区として統一した取組等	○小中合同研修によるパフォーマンス課題を取り入れた「子ども主体の学び」のある単元・授業づくり ○ユネスコスクールとして、ESDの視点で児童生徒が探究し、行動する生活科・総合的な学習の時間 ○21世紀型“スキル&倫理観”の育成をめざす小中合同運動会			

III 自校

ミッション	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題解決力	コミュニケーション力	挑戦する力	地域貢献力	
「地域の宝」となる子どもを育成する。 ○子ども主体の学びの場を充実させ、児童に学力をつける。 ○児童に当たり前のことが当たり前にできる力をつける。 ○地域と進んで関わり、地域から学び、地域を元気づける力を児童につける。	1・2年	・問題を理解し、それを何とか解決しようとしている。 ・解決方法を学び、生活の場面に役立てようとしている。	・自分の思いを結論先行理由付けをして他者に説明している。 ・自分の思いを伝え、相手の思いを受けとめている。	・決められたことを進んで実行している。 ・友達と協力して、自分の役割を最後までやりきろうとしている。	・地域の人と活動し、地域のよさに気付いている。 ・地域の行事に進んで参加している。	
学校教育目標	めざす子ども像	3・4年	・課題を見つけ、既習事項や生活経験を活かして解決しようとしている。 ・様々な解決方法を知り学習や生活の場面に役立てようとしている。	・自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持って他者に説明している。 ・自分の考えを進んで伝え、相手の考えを素直に受けとめている。	・自分で決めたことを進んで実行している。 ・友達と励まし合って物事を最後までやりきろうとしている。	・地域のことを体験的に学習し、地域のよさを知っている。 ・地域の人に喜んでもらえることを考えて実行している。
現状	考える行動するかわる	5・6年	・解決すべき課題を見つけ、情報を比較・分類・関連づけながら、解決までの見通しを持って課題を解決しようとしている。 ・学んだ解決方法を駆使してよりよい方法で解決し、学習や生活の場に役立てようとしている。	・自分の考えを結論先行理由付け、相手意識を持ってはっきりと説明し、他者の考えを聞いて、よりよい意見へと発展させている。 ・自分の考えを適切に伝えたり、他者の考えを的確に受けとめたりしながら、互いのよさを認め合っている。	・目標を決め、失敗を乗り越えながら挑戦している。 ・他者と協働して、物事をねばり強く最後までやりきろうとしている。	・地域のことを体験的に学習し、地域のよさや課題を伝えようと考えている。 ・地域の発展のためにできることを考えて実行している。
	研究	テーマ	「新しい学校で自分を表現できる子どもを育てる」 ～「挨拶ができる」から「自慢話ができる」へ～			
		内容等	「子ども主体の学び」を実現する評価と指導の在り方 ～児童の「考え」・「思い」をもとにした単元づくりを通して～			
	めざす授業の姿	友だちと協働して学ぶことが面白いと感じる授業 キーワード：ワクワク感「やってみよう」「なぜだろう」				

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

年 目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							目標に係る取組状況	加減評価	達成評価	改善方策	目標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	加減評価	達成評価	総合評価	改善方策
2	課題解決力・挑戦する力の育成	★	継続	友達と協働して学ぶことがおもしろいと感ずる授業をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童から自然に出てくる言葉を大切に、児童の思いをもとにした授業を行う。 自分の課題から目標を設定させ、目標を身近に感じさせながら挑戦させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、自分の思いや考えを表現し、「授業がおもしろい」と感じる児童を80%以上にする。 国語・算数・理科・社会の単元末テストの平均点を80%以上にする。 体力テスト県平均以上の種目を70%以上にする。 									
2	コミュニケーション力・挑戦する力の育成		継続	児童が互いに認め合い、自己肯定感を高めることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員から率先して挨拶をするほか、児童会を中心に挨拶運動を行う。 授業や学校生活の中で、友達の考えを認めほめる活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶・返事ができる児童の割合を80%以上にする。 自分の考えが認められていると思う児童を80%以上にする。 									
2	地域貢献力とともに学校の信頼度を向上させる		継続	児童が地域と連携した活動を通して、地域の一員としての自覚を持たせる。 児童・保護者・地域の人・教職員が充実感や安心感をもつことができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した活動を行い、学んだことを積極的に地域に発信する。 組織及び各教職員でスケジュール管理や業務削減を行いながら効率的な業務の遂行を図り、働き方改革を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学んだことを保護者や地域に対して、学期に1回以上発信する。 行事等の活動について地域の人の肯定的評価を90%以上にする。 教職員の勤務時間外在時間時間を45時間以内の教職員を100%にする。 									

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。